推 薦 図 書

学　科：　文学部　人間関係学科	氏　名：　下川 達彌
書　名：　低い天井　歌集	
著者・訳者：　永石三男著	
出　版　：　芸文社　1996	

〈推　薦　文〉

『活水チャペル 26』2010年に贈る言葉として紹介した「ふたたびは帰らぬ今の現なり　日向に佇たす師と我の影」を詠んだ永石三男(1904～1958)は、北原白秋の門下で白秋の末期の水をとった人物である。

佐世保の街中に住し、貧困の中でも常に短歌の文学的表現を目差し、素朴に人生の喜怒哀楽を詠んで一生を終えた生涯は、この歌集『低い天井』に集約されている。

死の数ヶ月前に彼の講演を初めて聞いて衝撃をうけた私(下川)は、中学三年生であった。身近な埋もれた中にも素晴らしいものがあり、それが又楽しくもある。